

【評価ステップ2】 推進にあたっての指標の達成状況

※割合については、目標達成したものを除き、市ベースライン（H21）から10%以上の割合で増加、減少したものをそれぞれ「改善傾向」「悪化傾向」とした。

◆食育に「関心がある」人の割合は悪化傾向

食育に「関心がある」と答えた人の割合は減少した。また、国の現況値と比較しても低い値である。第2期計画策定時は、食育に「関心がある」人は23.9%であったが、「どちらかといえば関心がある」人（H21年45.5%）に、より関心を持ってもらうことを目指し、目標値を70%に設定した。今回の調査では、「関心がある」人が減少したほか、「どちらかといえば関心がある」人も大きな変化はなかった。

食育サポーター（団体・個人）の登録数は、活動の縮小、メンバーの減少等により登録を更新する団体（個人）が減少している。

◆朝食を毎日とる人の割合は30歳代男性で改善傾向、20歳代女性は悪化傾向

30歳代の割合は増加し、国の現況値も超えているが、目標値には達していない。逆に20歳代女性は悪化している。また、10%の割合に満たない変化ではあるが、小学5年生、中学2年生ではわずかに減少、20歳代男性、30歳代女性ではわずかに増加している。

評価：◎目標達成 ○改善傾向 →変わらない ▼悪化傾向 -把握方法が異なり評価困難

指標項目	ベースライン (H21)	中間値 (H28)	評価	目標値 (H34)	国の 現況値 (H27)	
食育に「関心がある」人の割合	23.9%	21.0%	▼	70%以上	37.9%	
1日1回は家族や仲間と食事をする人の割合	58.8%	※1 60.9%	-	75%以上		
食育サポーター（団体・個人）の登録数 ※2	22	10	▼	増加		
朝食を毎日とる人の割合	4歳児 ※3	95.4%	95.0%	→	100%	
	小学5年生 ※4	89.8%	88.8%	→	100%	
	中学2年生 ※4	86.2%	84.1%	→	100%	
	20歳代男性	50.0%	53.4%	→	85%以上	56.1%
	20歳代女性	64.9%	55.1%	▼	85%以上	64.9%
	30歳代男性	54.3%	62.0%	○	85%以上	60.6%
	30歳代女性	74.1%	75.1%	→	85%以上	77.0%

資料：仙台市「仙台市民の健康意識等に関する調査」H29年3月

国「食育に関する意識調査」H28年2月

※1「市政モニター調査」H29年3月

※2 健康政策課調べ

※3「幼児の家庭における食生活調査」（仙台市保育所連合会）H27

※4「仙台市立小・中・中等教育・高等学校児童生徒健康実態調査」H29年3月

◆適正体重にある人の割合は、成人女性で改善傾向

40～60歳代女性の肥満は目標値に達した。また、20歳代女性のやせも改善傾向にある。児童・生徒、20～60歳代男性の肥満については横ばいである。

◆栄養成分表示を参考にしている人の割合は悪化傾向

栄養成分表示を“参考にしている人”（「必ず参考にする」「参考にすることが多い」と答えた人）の割合は、特に外食時について悪化している。食品購入時でもわずかに減少傾向である。なお、第2期計画策定時は、外食時に「参考にすることもある」人（H21年43.6%）の意識を高めることを目指して目標値を設定したが、今回の調査では、「参考にすることもある」と答えた人の割合に大きな変化はなかった。

◆学童農園・市民農園の数は増加

食育の体験の場として、学童農園・市民農園が増加している。

評価：◎目標達成 ○改善傾向 →変わらない ▼悪化傾向 -把握方法が異なり評価困難

指標項目	ベースライン (H21)	中間値 (H28)	評価	目標値 (H34)	国の 現況値 (H27)	
適正体重の範囲にある人の 割合	児童・生徒の肥満※5	8.6%	8.3%	→	7%以下	
	20歳代女性のやせ	21.9%	16.2%	○	15%以下	22.3%
	20～60歳代男性の 肥満	29.1%	30.7%	→	15%以下	31.6%
	40～60歳代女性の 肥満	16.4%	14.9%	◎	15%以下	20.5%
栄養バランスに気を付けている人の割合	82.8%	※6 95.9%	-	95%以上		
外食栄養成分表示実施店の数 ※7	237店舗	56店舗	-	増加		
栄養成分表示を参考にしている人の割合 (食品購入時)	27.2%	26.9%	→	75%以上		
栄養成分表示を参考にしている人の割合(外食時)	22.5%	19.6%	▼	60%以上		
学校給食の地場産物利用品目数の割合 ※8	30.1%	29.5%	→	増加		
学童農園・市民農園の数 ※9	114農園	117農園	○	120農園		
食品の安全性に関する講習会の受講者数 ※10	8,317人	7,512人	→	増加		

資料：仙台市「仙台市民の健康意識等に関する調査」H29年3月

国「食育に関する意識調査」H28年2月

※5 仙台市立学校健診まとめ ※6 「市政モニター調査」H29年3月

※7 健康政策課調べ（外食栄養成分表示実施店登録業が平成27年度から切り替わっているため評価が困難）

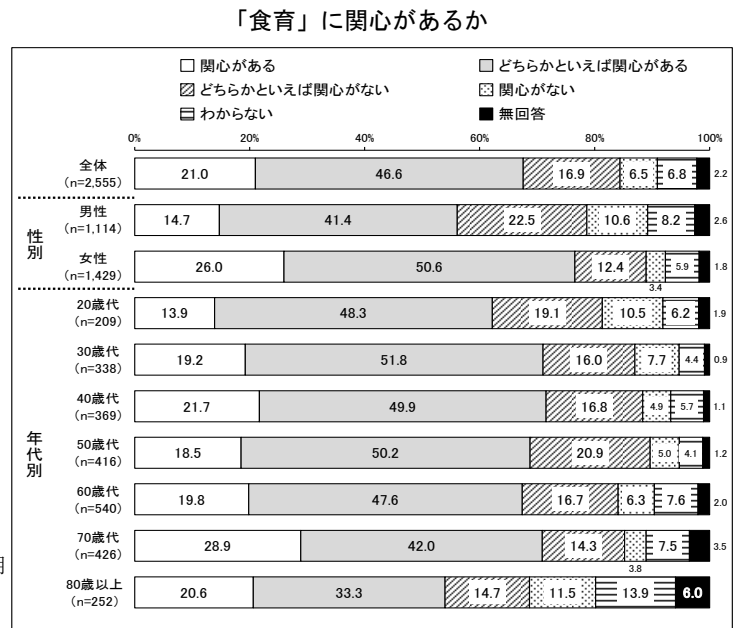
※8 「せんだいっ子給食月間」実施状況調査 H29年1月 ※9 農政企画課調べ ※10 生活衛生課調べ

《食育に「関心がある」人は、20歳代が最も低い割合》

性別でみると、女性は男性に比べて「関心がある」の割合が高くなっている。

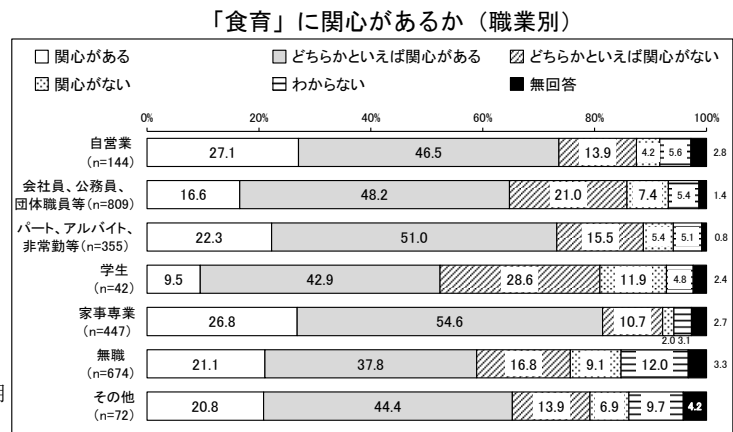
年代別では、20歳代が最も低く、70歳代が最も高くなっている。

資料: 仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3月

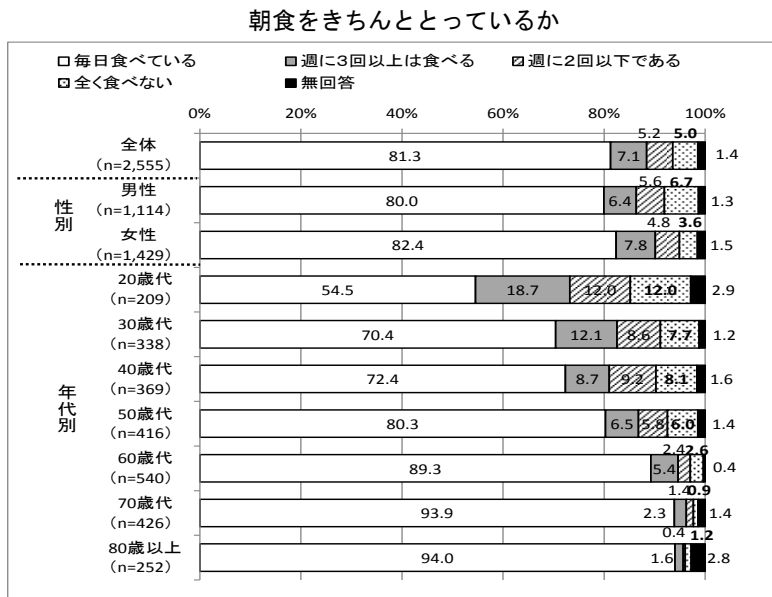


職業別でみると、学生が最も低く、次いで会社員・公務員等が低い傾向である。

資料: 仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3月



《朝食を毎日とる人は、20~30歳代で低い割合》



性別でみると、女性より男性の方が「毎日食べる」割合が低い。年代別でみると、若い年代ほど割合が低くなっている。

資料: 仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3月

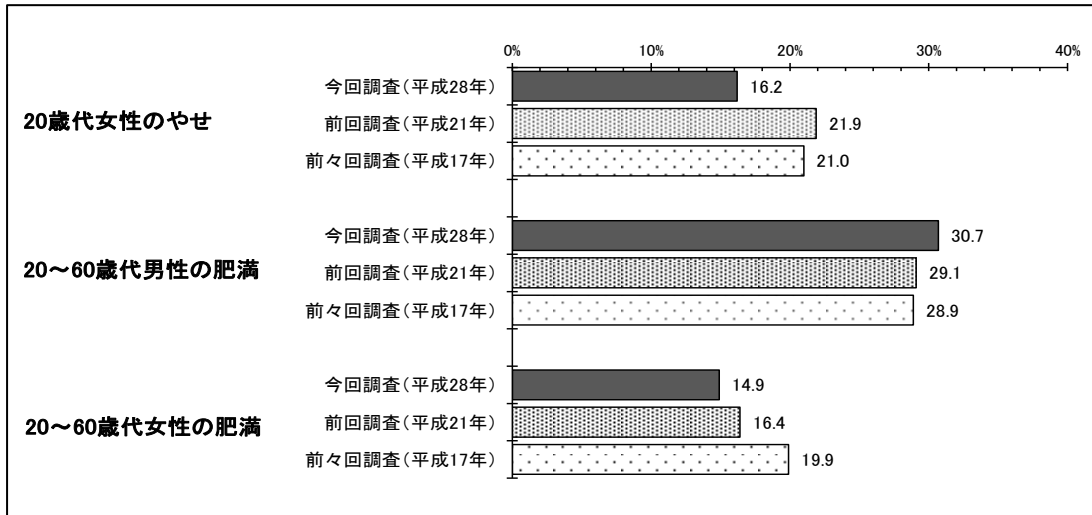
《女性の肥満は減少傾向、男性の肥満は増加傾向》

前々回調査結果から経年で比較すると、20～60歳代女性の肥満は減少している。

逆に20～60歳代男性の肥満は増加傾向がみられる。

20歳代女性のやせは、前々回調査から前回調査にかけてわずかに増えたが、今回調査で改善がみられた。

「20歳代女性のやせ」「20～60歳代男性及び女性の肥満」の調査実施年毎の割合



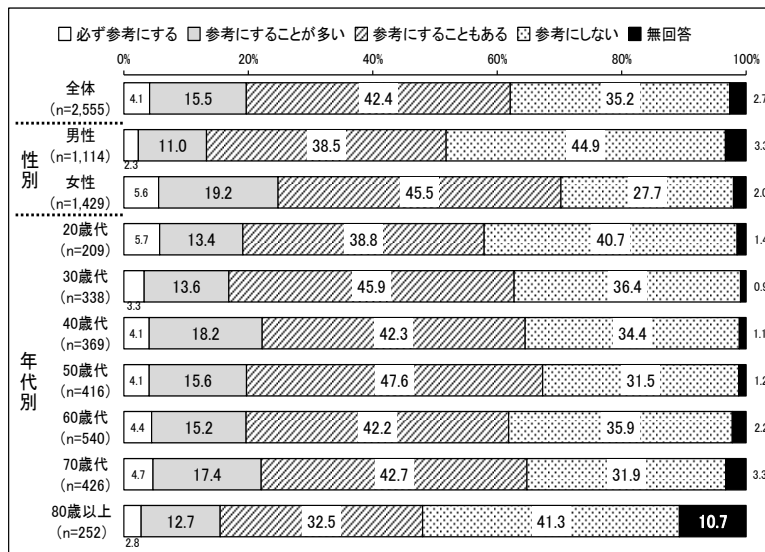
資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29.3月

《外食時に栄養成分表示を参考にする人は、女性より男性の方が少ない》

外食時に栄養成分表示を「必ず参考にする」「参考にすることが多い」と答えた人は、女性24.8%に比べ、男性は13.3%と低い割合である。

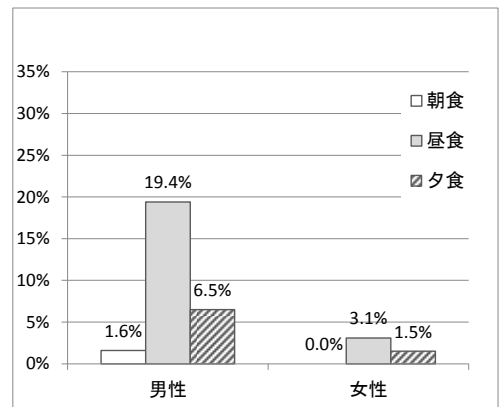
一方、外食の利用頻度をみると、女性より男性の方が多い傾向がある。

外食時、メニューの栄養成分表示を選ぶときの参考とするか



資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29.3月

性別毎の外食利用状況 (週3日以上)



資料:市政モニター調査 H29.3月

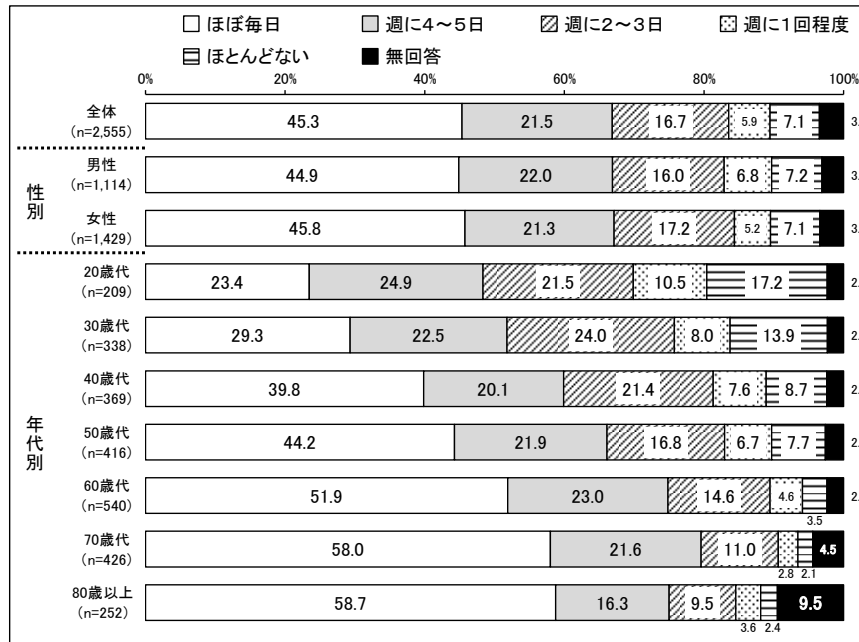
その他の調査結果から見える課題

■主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日とっている割合は半数以下

主食・主菜・副菜をそろえて1日2回以上食べる頻度をきいたところ、「ほぼ毎日」は45.3%であった。

年代別では、若い年代ほど「ほぼ毎日」の割合が低い傾向がみられる。20歳代では17.2%、30歳代では13.9%が「ほとんどない」と答えている。

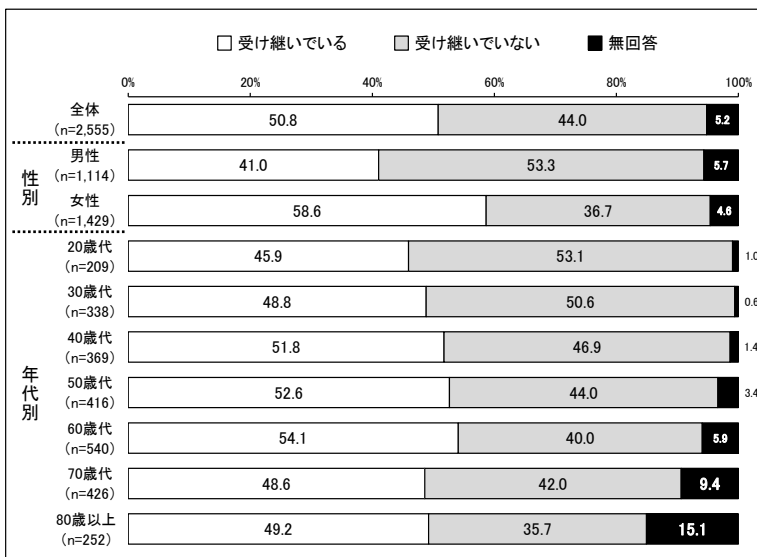
主食・主菜・副菜をそろえて1日2回以上食べる頻度が週に何日あるか



資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3 月

■地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を受け継いでいる人は若い年代ほど低い傾向

郷土料理や伝統料理などを受け継いでいるかきいたところ、「受け継いでいる」と答えた割合は、全体で50.8%



であった。性別で見ると、女性の方が割合が高い傾向、また年代別で見ると、若い年代ほど低い傾向である。

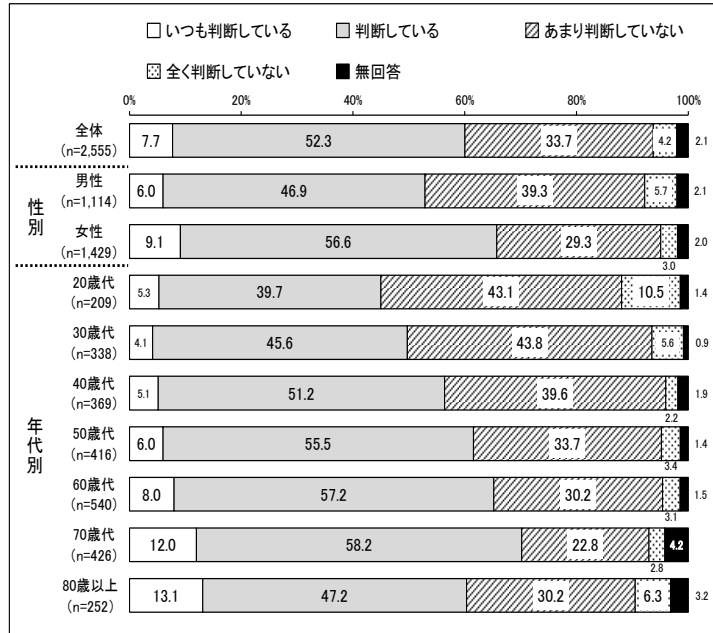
資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3 月

■食品の安全性について自ら判断している人は6割、若い年代ほど低い傾向

安全な食生活を送るための判断についてきいたところ、「いつも判断している」「判断している」をあわせた割合は、全体で60.0%で、性別では女性の方が高かった。また、年代別では若い年代ほど低い傾向がみられた。

資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3月

安全な食生活を送ることについてどの程度判断しているか

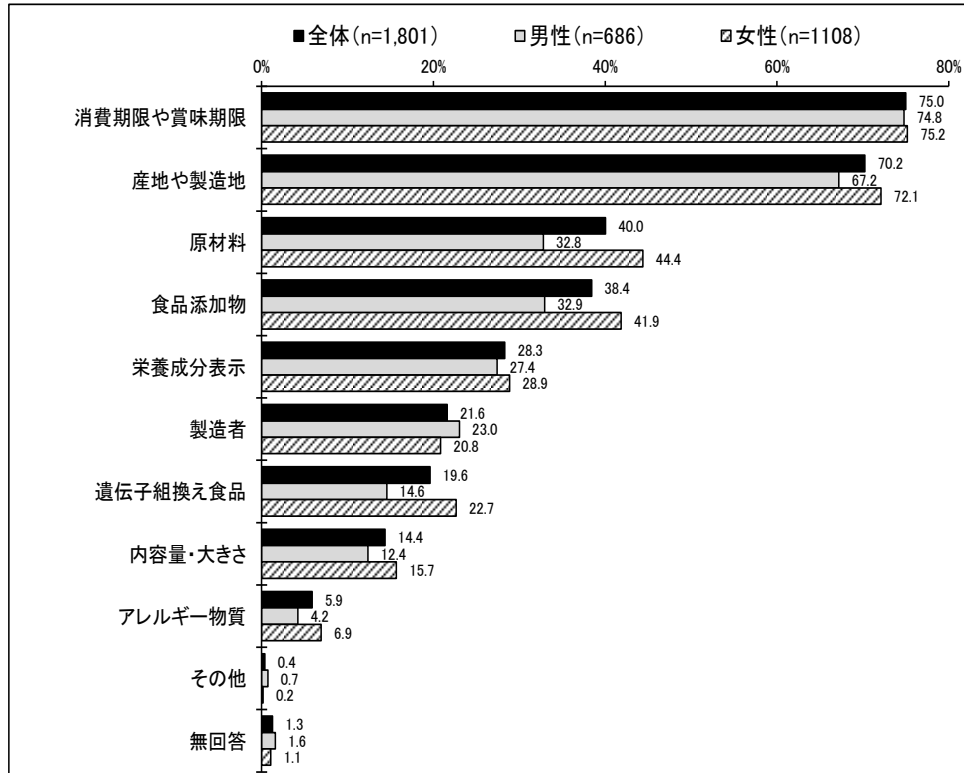


■食品表示の中で重視する項目は、消費期限や賞味期限がトップ

「食品表示を見るか」をきいた質問で、全体の70.5%が「はい」と答えている。

次に、「はい」と答えた者に、食品表示の中で重視する項目は何かをきいたところ、「消費期限や賞味期限」が全体で75.0%と一番多く、次いで「産地や製造地」が多かった。「栄養成分表示」は28.3%であった。

食品表示の中で重視する項目は何か（複数回答）



資料:仙台市民の健康意識等に関する調査 H29. 3月